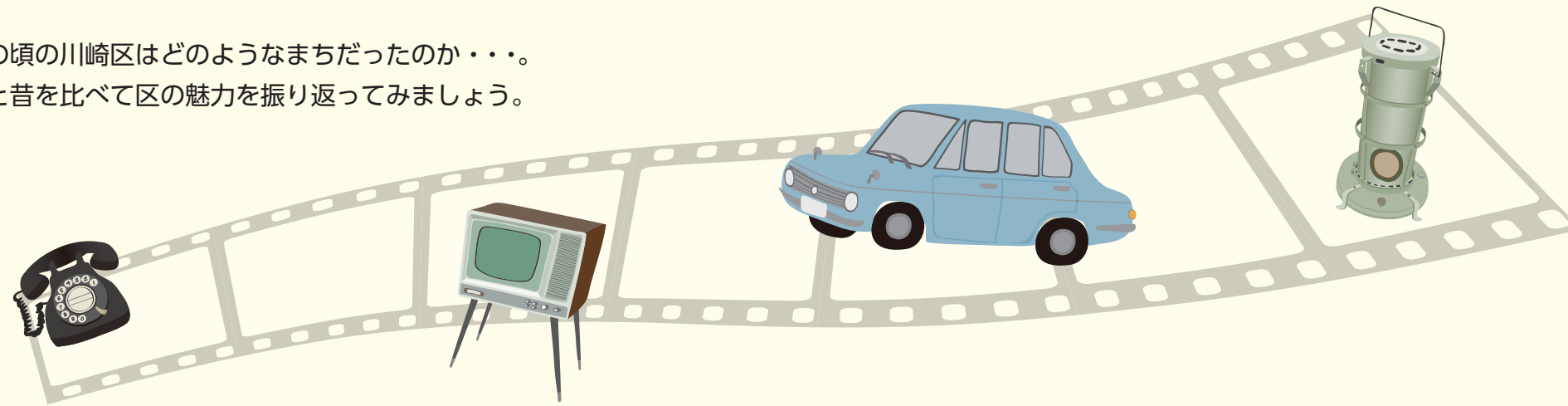


あゆみの川崎区

あゆみの川崎区はどのようなまちだったのか……。
今と昔を比べて区の魅力を振り返ってみましょう。



クイズ

ここはどこだろう？②



ヒント 毎年、大きなお祭りが開催されます。

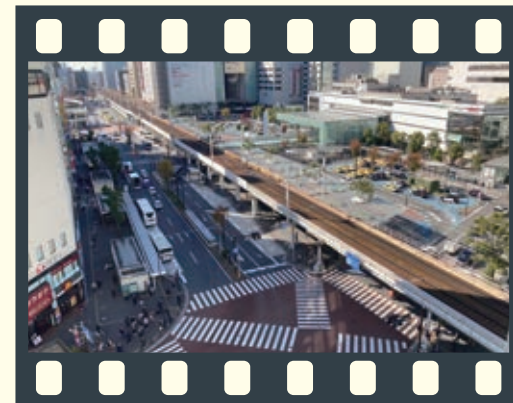
答えは最終ページ

① 川崎駅前

昭和34年頃



所美美子氏提供



現在

昭和34(1959)年に県内初の駅ビルが完成。当時は、京浜急行線が高架化されておらず、市電(路面電車)も走っていました。桜川公園には廃止されるまで活躍した市電車両が現在も保存されています。

② 京急川崎駅前のプール

年代不明



市民ミュージアム所蔵



現在

昭和40年代には京急川崎駅前にプールがあり、多くの人でにぎわっていました。プールがあった場所にはその後、ボウリング場ができ、現在は家電量販店になっています。

③ 銀柳街

昭和44年頃



所美美子氏提供



現在

昭和24(1949)年に市役所通りと新川通りを結ぶ商店街が完成。平成6(1994)年に設置された国内最大級のステンドグラスをあしらったアートと開閉式の屋根が特徴です。現在では、延長250mの街路の両側に多くの店舗が並んでいます。

④ 川崎映画街

昭和34年頃



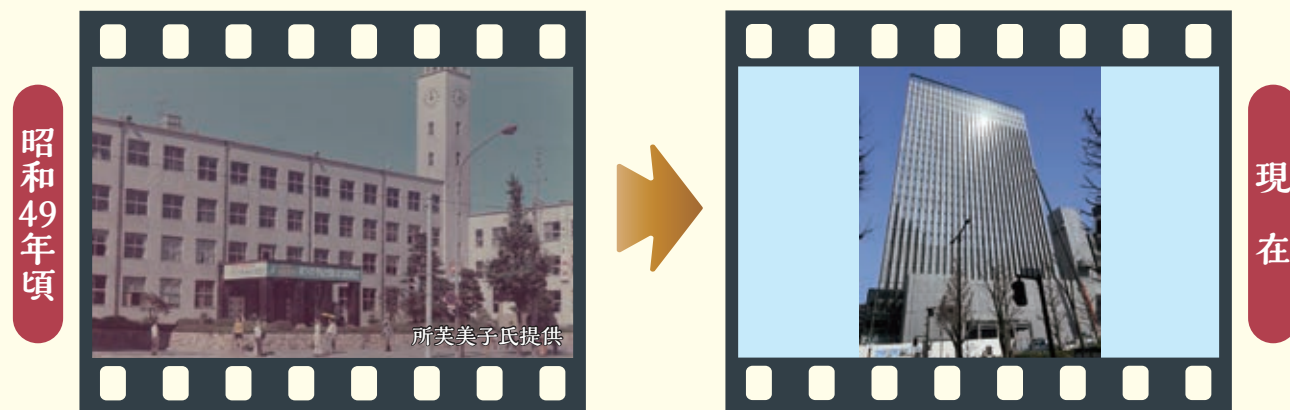
所美美子氏提供



現在

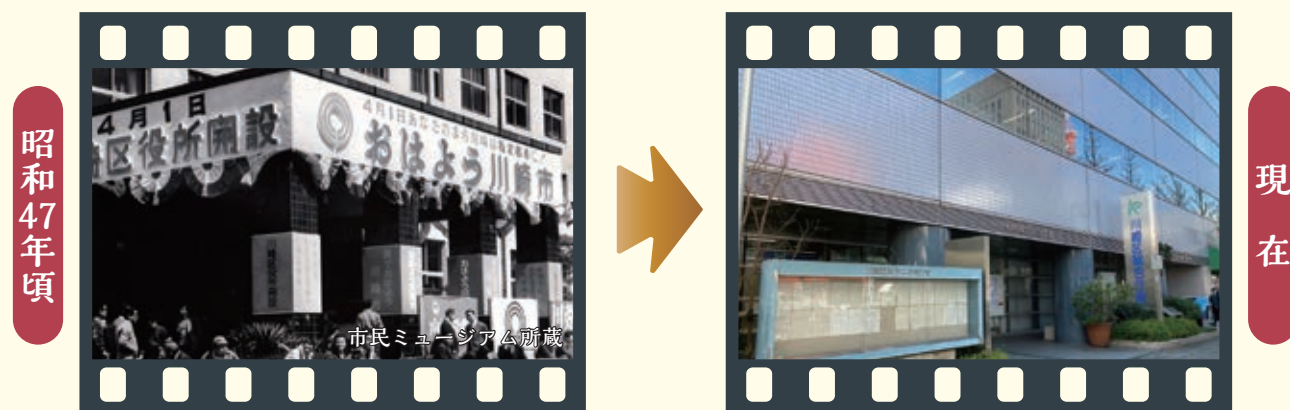
昭和12(1937)年に、小川町に市内初となる「川崎映画街」が誕生。その後、川崎大空襲により全館が廃業になるも、昭和20(1945)年に「川崎銀座座」が開業、昭和25(1950)年に「銀映会」が設立され、川崎の戦後復興に大きく貢献しました。現在は、複合商業施設「ラ チッタデッラ」になり、新たな文化情報発信地として生まれ変わっています。

⑤ 川崎市役所(本庁舎)



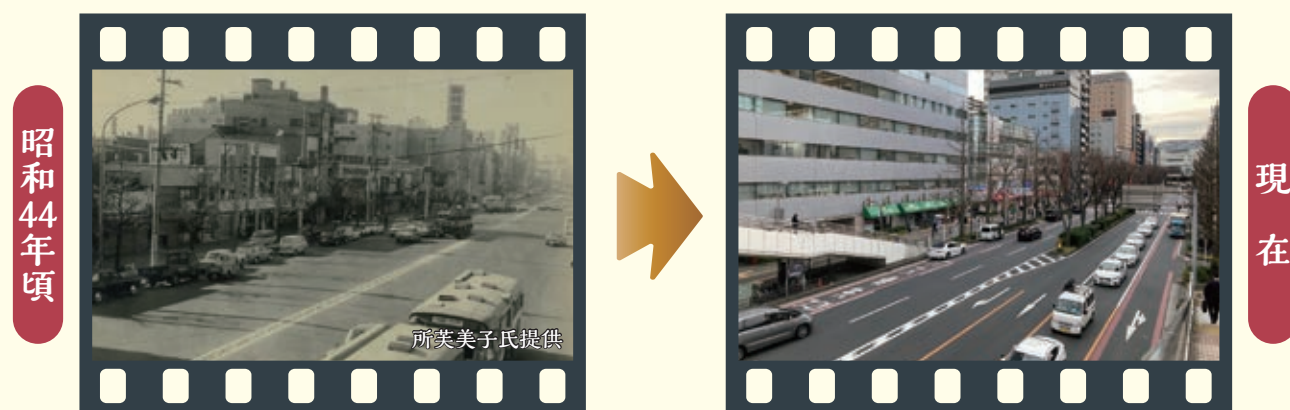
昭和13(1938)年から平成28(2016)年2月まで、川崎市の本庁舎として使用されていました。大規模地震で倒壊する危険性があることなどから建て替えることになり、平成28(2016)年に解体工事に着手。本庁舎の記憶を継承するため、いったん解体した後、正面の外観の一部を新しい庁舎の復元棟として新築復元することとなっています。

⑥ 川崎区役所



もともとは市役所庁舎の中にあった川崎区役所。その後、利便性や市民サービスの向上を図るため、平成2(1990)年に川崎市役所斜め前のパレールビルに移転し、保健所なども入った川崎区総合庁舎としてオープンしました。

⑦ 市役所通り



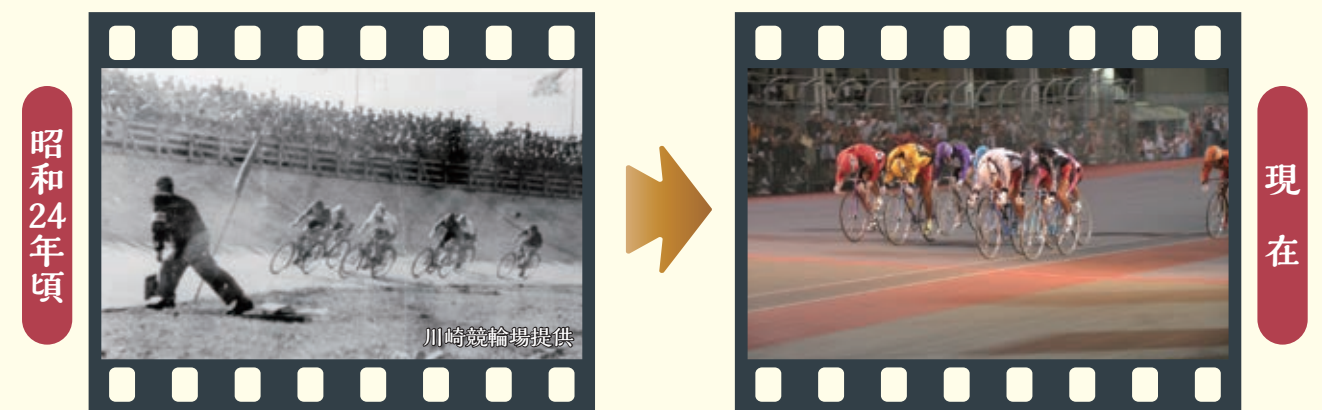
当時の宮前歩道橋(現川崎ハローブリッジ)から見た市役所通り。現在のパレールビルがあったところには建設会社の資材置き場や飲食店などのお店が、市役所第3庁舎のところには福祉事務所と市役所の駐車場、書店などがありました。現在は県内でも有数の銀杏並木通りとして知られています。

⑧ 川崎市立労働会館



川崎で働く市民の勤労意欲の向上を目的として昭和26(1951)年に開館。開館以来、数回の改築を経て、昭和56(1981)年に現在の姿になりました。愛称は「サンピアン川崎」。同施設は再編整備を行うため、令和5(2023)年3月31日をもって休館し、今後、川崎市教育文化会館との複合施設として生まれ変わる予定です。

⑨ 川崎競輪場



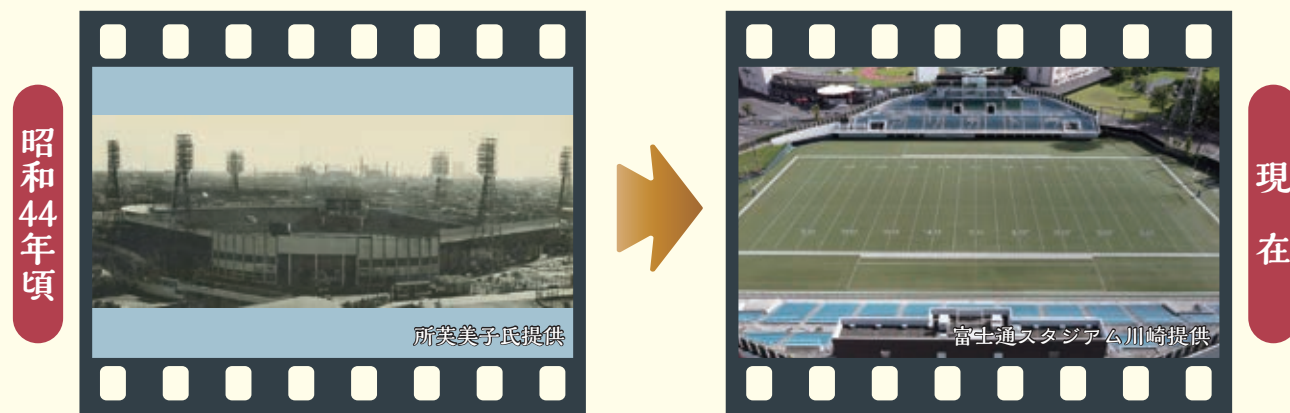
昭和24(1949)年に全国で5番目となる競輪場が富士見公園内に誕生。毎年4月に開催される「桜花賞」は全国的に有名なレースで、有力選手が多数参加し、大きなにぎわいを見せています。

⑩ 川崎競馬場



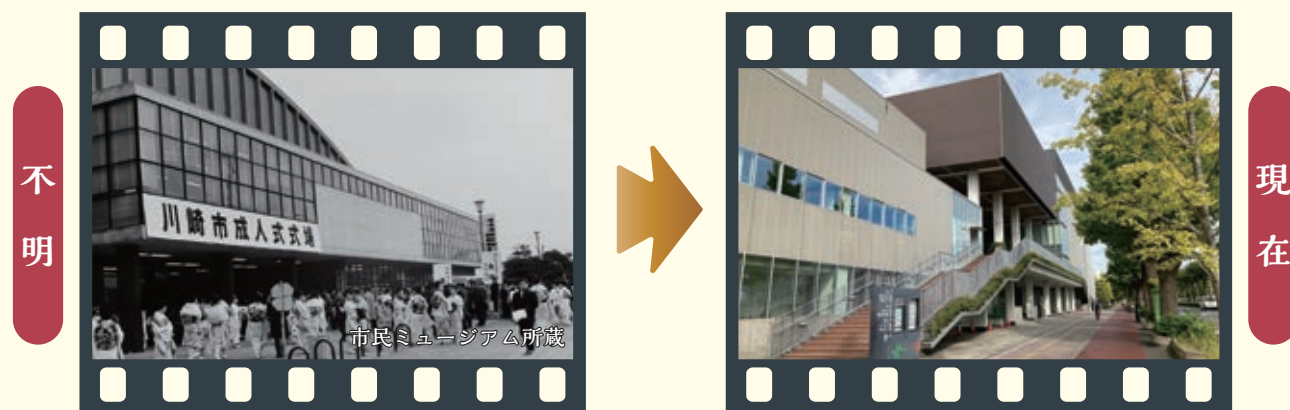
明治39(1906)年に開設された川崎競馬場。その後、競馬の過熱が社会問題化し、競馬場が廃止されたため、跡地に工場が建設されましたが、太平洋戦争中の空襲により焼失。戦後、その跡地に現在の川崎競馬場が誕生しました。遊具や広い芝生もあり、子どもたちが遊べるスポットにもなっています。

11 川崎球場



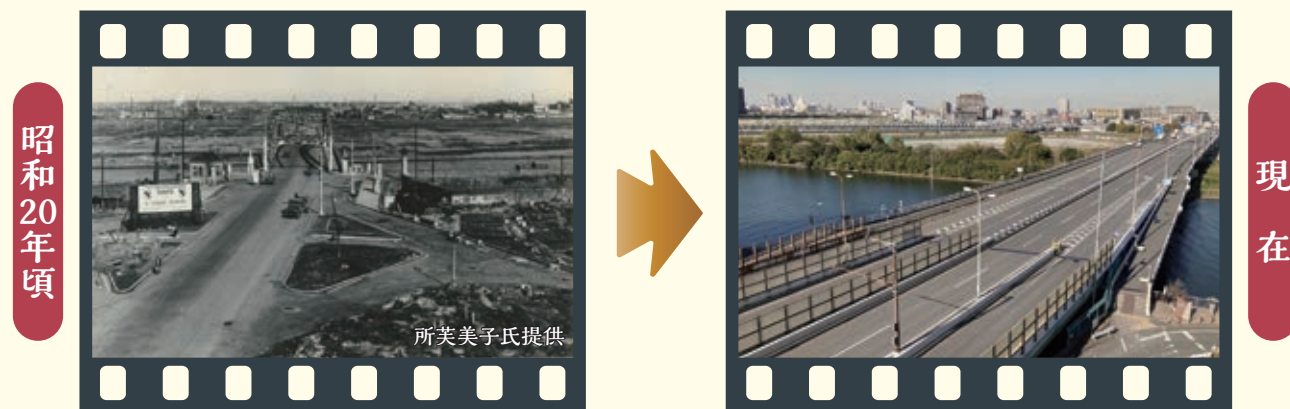
かつて大洋ホエールズやロッテオリオンズの本拠地であった川崎球場。平成12(2000)年には耐震の問題から球場を閉鎖し、工事が開始されました。翌年の平成13(2001)年に営業を再開、平成26(2014)年には川崎富士見球技場(愛称:富士通スタジアム川崎)に改称され、アメリカンフットボール大会の会場などに利用されています。

12 川崎市体育館



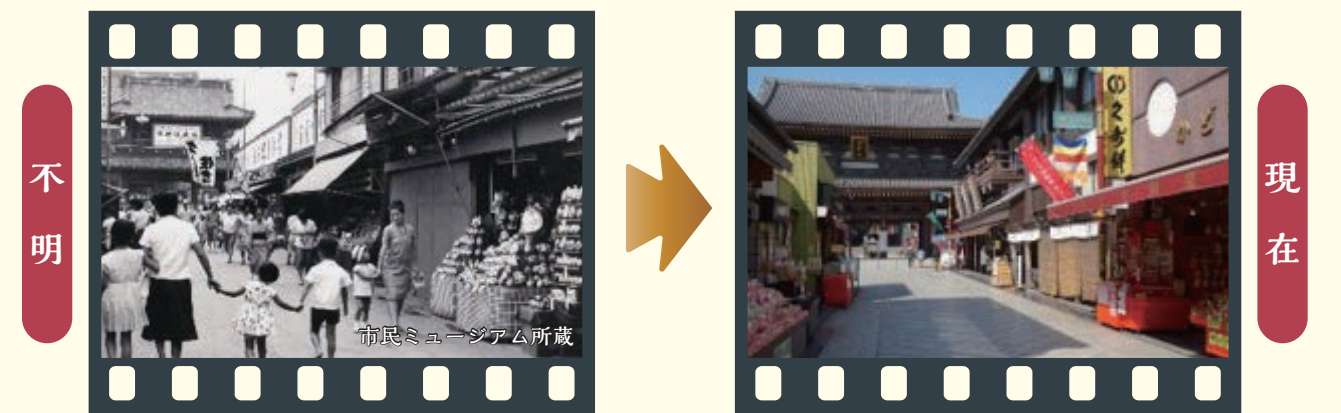
昭和31(1956)年に建てられた川崎市体育館(会館当時は川崎市立市民会館)。かつては成人式も行われていました。同館は平成26(2014)年に閉館しましたが、跡地には川崎市スポーツ・文化複合施設(カルッツかわさき)がオープン。令和4(2022)年10月に5周年を迎え、多くの人に利用されています。

13 六郷橋



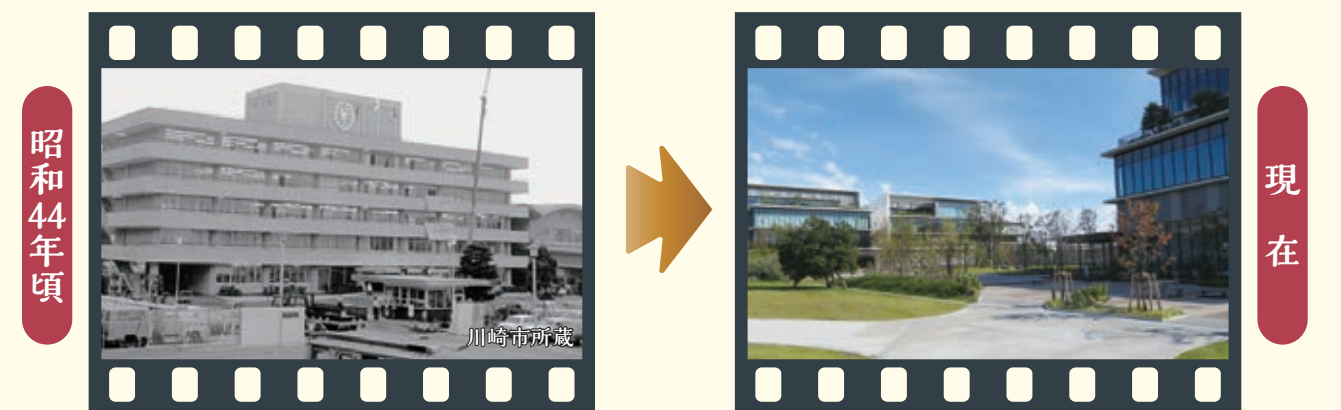
戦火を逃れた旧六郷橋(大正14(1925)年建設)の風景。明治初期までは、多摩川が氾濫するたびに橋の破損や流出を繰り返していたため、渡し船による渡河が続いていました。

14 川崎大師仲見世通り



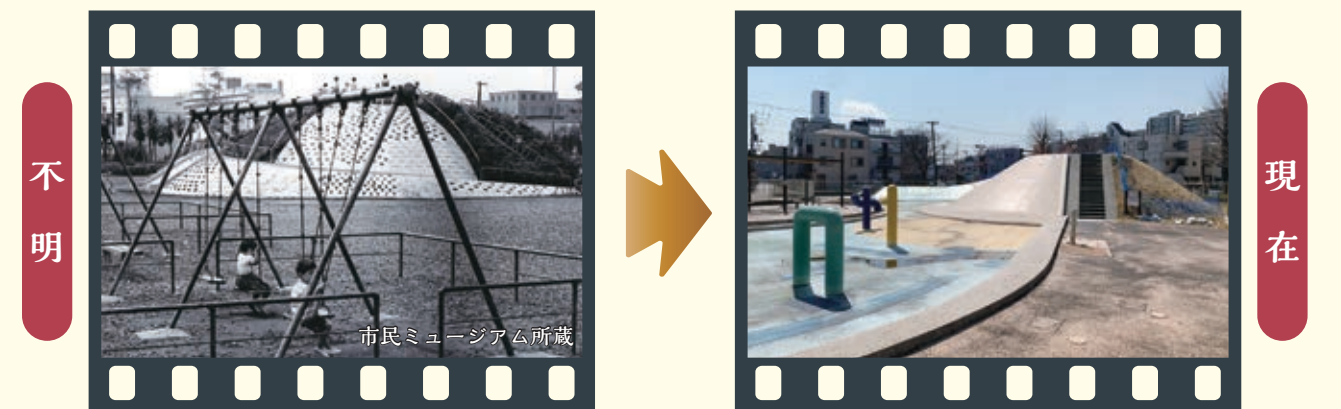
川崎大師の参詣客をはじめ、地元の皆さんに広く親しまれている仲見世通り。「トントコ」とリズムカルに鳴り響くあめを切る音が平成8(1996)年に「日本の音風景100選(現環境省認定)」に選ばれました。

15 殿町キングスカイフロント



かつてはいすゞ自動車川崎工場がありました。現在は、ライフサイエンス・環境分野を中心に、研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点となっています。

16 小田公園



夏になると子どもたちでにぎわう小田公園のじゃぶじゃぶ池広場のスライダー。山型の大きな遊具は、昔から公園のシンボルでした。